

潮風に吹かれて のんびり

内海湾クルーズ



弥 生時代、大陸から海を渡ってやってきた人々はまず内海湾に入り、そこで小さな舟に乗り換えて幡鉾川を上り、一支国の王都・原の辻へと向かった。つまり内海湾はかつて古代船が往来した国際的な海の玄関口。そうしたことから内海湾もまた日本遺産の構成文化財に認定されている。

日本遺産の認定を契機に発足したのが「彦岐内海湾振興会」。同会は内海湾の魅力を再発見し、「内海湾ブランド」を彦岐の新たな目玉にしようと結成された。その活動の一つが、内海湾に浮かぶ小島の周囲を手漕ぎの舟で遊覧する「小島伝馬船」だ。

さっそくみの笠をかぶり、伝馬船へ乗り込む。この日は快晴とあって、風も心地よい。船頭を務める山本壽一さんは内海湾のそばで生まれ、内海湾とともに育ったという。「小学生から二十歳くらいまで、この伝馬船を漕いでいましたね。夏はスイカをもらうために、親戚の住む近くの島までよく友だちと舟を漕いだものです」と懐かしそうに話す。体が覚えているのだろう。昨年から始めたという伝馬船クルーズだが、山本さんの漕ぎは実に見事だ。

内海湾に浮かぶ小島は昔から島全体

が神域とされ、神様が祀られている。島の前には鳥居が立ち、なんともいえない神秘的なオーラを醸し出している。伝馬船はゆつくりとその小島神社へと進んでゆく。島のそばまで近づくと、山本さんは

「どうぞ」とポケットから真珠を一粒取り出して渡してくれた。「この真珠を海の中に投げてから、お願いごとをしてください」。思いもよらぬ言葉に驚いたものの、自分の放った真珠がいつまでも海の底にある風景を思い浮かべると、願いが叶いそうな気がしてくる。このロマンチックな演出は、真珠養殖業を営む山本さんならではのアイデア。「みなさんの人生が光り輝きますようにという願いを込めて、真珠をお渡ししています」。

伝馬船クルーズは約四十分。波穏やかな内海湾の美景もさることながら、山本さんのおしゃべりも楽しい。「実は今、私が書いた詞に曲を付けてもらっているんです。曲が完成したら舟を漕ぎながら歌おうと思つて」と山本さんは少年のように笑った。山本さんのひとつひとつの言葉には、内海湾が好きでたまらないといった思いがあふれている。「どこにも行きたくありませんね」と話す山本さんこそ、彦岐の宝かもしれない。

内海湾遊覧船(山本真珠)

彦岐市芦辺町諸古南舩111-2
TEL.090-8417-5222(山本)

